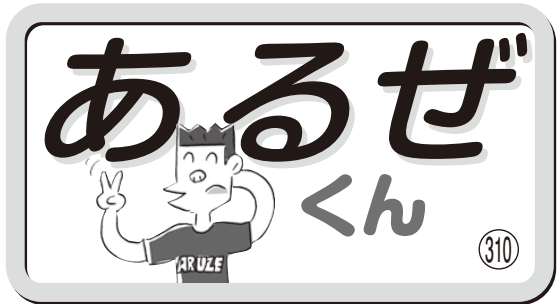




アルゼ株式会社に勤務するあるぜくんは、好奇心旺盛で向上心も人一倍。そしてもっと多くの人にアルゼのことを知ってもらいたいと頑張っています。



国富が失われてゆく…

あるぜくんの会社は、東京のお台場・有明地区にあるが、高層階のオフィスから東京湾一帯が見渡せる。目の前には、最後のごみ処分場「中央防波堤沖」の埋立地や青海地区のコンテナターミナル、そして都心部の高層ビルがたくさん見える。

かつて、あるぜくんは東京上空の空域の模型を見て驚いた。東京の地形の模型があり、その上に空域の模型があったのだが、羽田空港の離着陸のために民間航空機の通行空域はチューブ状に限定されており、残りの大部分は米軍管理下の空域となっていると教えられた。そして東京の西の空域には、広大な米軍管理下空域が広がっているのである。民間の航空機の多くは、その空域を避けなくてはならない。そのため燃料や時間のロスに繋がり、利用者に負担を強いている。

戦後60年が過ぎたというのに依然としない。たしかに戦後の日本の経済発展は、アメ

リカの大きなバックアップあつてのものだった。しかしこれは、アメリカの国防政策での極東対策の一環であつたに過ぎない。つまり対立する東西陣営でのアメリカの国益の延長線上にあつた政策だったのだ。アメリカにくらべて日本の政府や官僚は、自国の国益を守ることを国民に意図的に知らせないようだ。

このままでは日本の国際競争力も下がる一方であり、国民一人当りのGDPは、すでにシンガポールにも抜かれていく。そのため発言力が弱まり、拉致問題での日本の主張もアメリカは無視している。

年間2000億円以上もの「思いやり予算」(在日米軍基地に對して日本政府が負担している経費。われわれの税金である)をカットする気力が欲しいところである。

日本の政治家も行政も、この国の国民や企業の国益をどのように守り、どうやって繁栄を続けていこうというのか。「知的財産立国」と掛け声はあるものの、日本の基本戦略がはっきりしない。オフィスから戦後日本の発展の成果を見渡しながら、これからの日本に不安を感じるあるぜくんだった。



イラスト……山本ミナ

最新機種情報はアルゼ王国 (一部非対応機種有り) サイトへアクセス!!

懐かしのヒーロー登場!!

© 2007 永井豪・石川賢 / ダイナミック企画

月額情報料 315円(税込)
※別途/バケット通信料がかかります。

© 2008 ARUZE MEDIA NET CORP. © 2008 ARUZE CORP.
※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

アルゼ株式会社